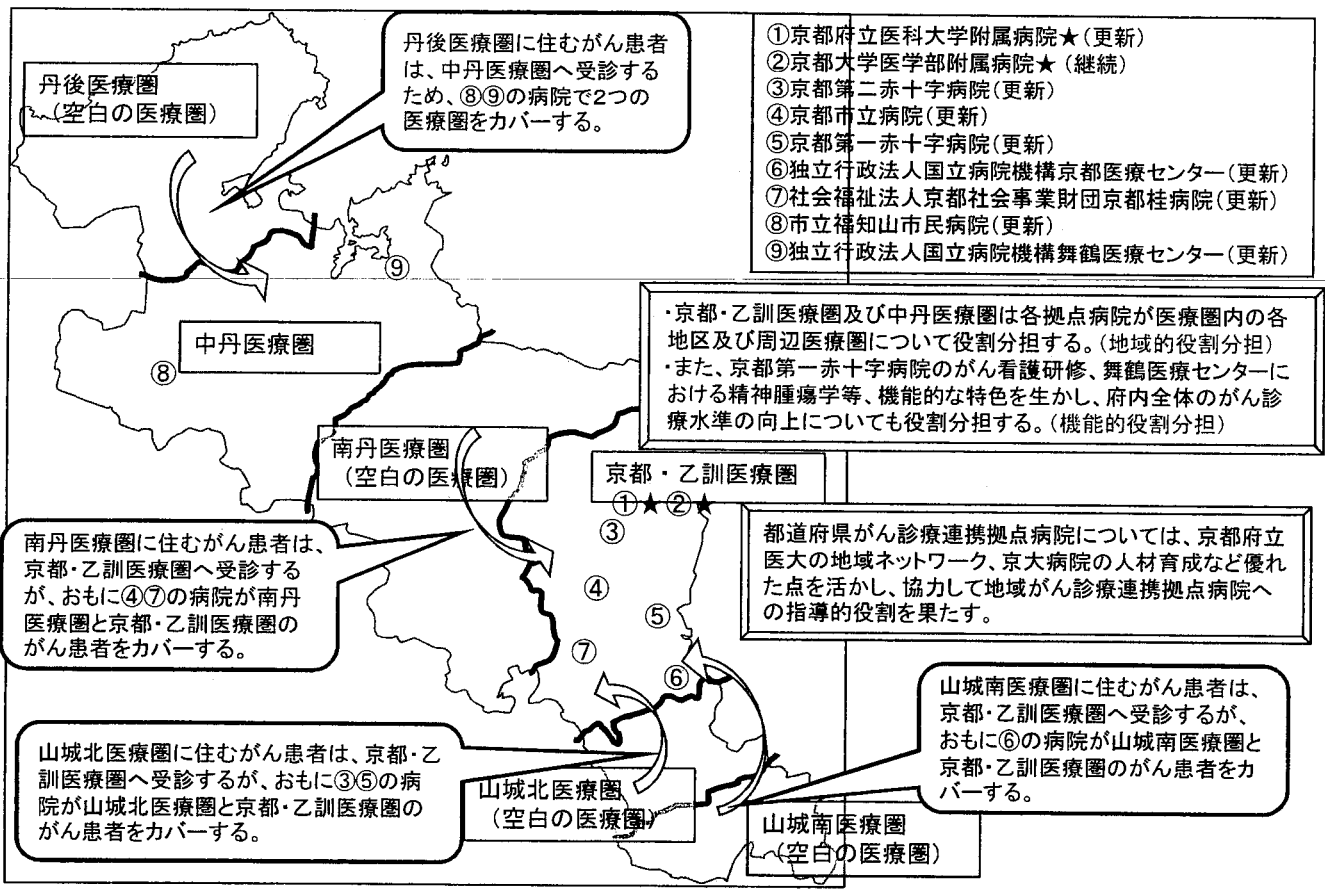


京都府 平成22年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



京都府におけるがん診療連携拠点病院数・機能的役割分担等について

二次医療圏	人口	必要な拠点病院数	拠点病院	機能的役割分担 (下記分野で医療等の水準向上に取り組む)
丹後医療圏	11万人	(1)	※	
中丹医療圏	21万人	2 丹後医療圏の支援含む	福知山市民病院 舞鶴医療センター	血液がん、IMRT、小線源(府北部) 精神腫瘍学、温熱療法
南丹医療圏	15万人	(1)	※	
京都・乙訓医療圏	162万人	7~8 周辺医療圏の支援含む	京都桂病院	肺がん治療、薬剤師研修
			京都市立病院	血液がん、小児がん、小線源、腔内照射
			京大医学部附属病院	人材育成・配置、先進的放射線治療
			京都府立医大附属病院	拠点病院ネットワーク、緩和ケア指導
			京都第二赤十字病院	内視鏡診断・治療、地域連携
			京都第一赤十字病院	消化器、婦人科がん、看護師研修
			京都医療センター	化学療法、患者との連携
山城北医療圏	45万人	(1)	※	
山城南医療圏	12万人	(1)	※	

※ がん診療連携拠点病院のない医療圏については、がん診療連携拠点病院と連携し、当該圏域における医療水準の向上、連携体制の構築を目指す「地域がん診療連携協力病院」(4病院)を設置。
 ・相談支援センター設置、近隣拠点病院と連携し診療連携会議を開催する等の取組を実施中
 ・21年度 1病院 3,000千円補助
 丹後: 京都府立与謝の海病院、南丹: 公立南丹病院、山城北: 第二岡本総合病院、山城南: 公立山城病院

京都府のがん診療連携拠点病院等への支援・連携推進の取組

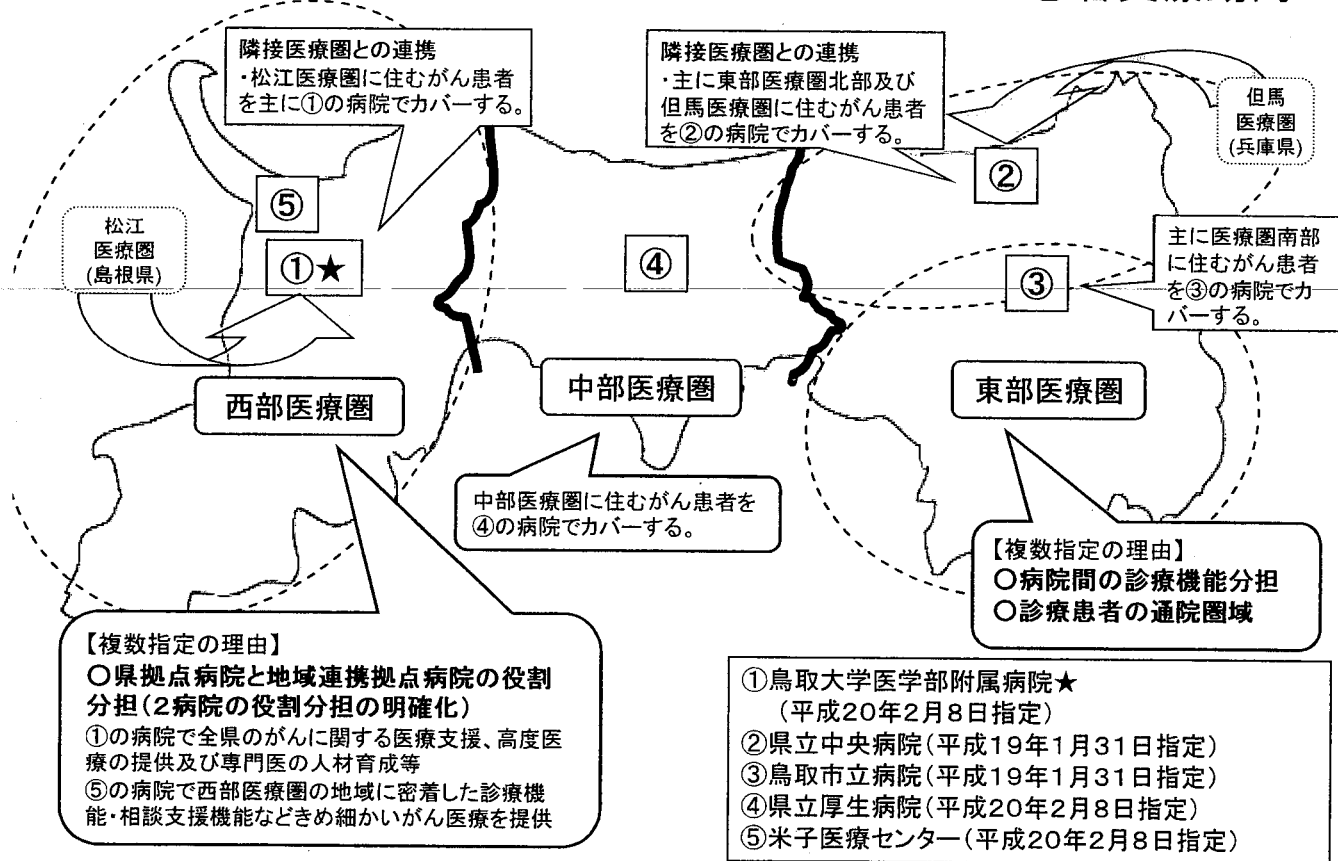
運営助成	○がん診療連携拠点病院に対し、国単価の満額を補助 21年度 都道府県拠点:28,000千円、地域拠点:22,000千円
専門従事者確保	○認定看護師(がん放射線療法看護)養成講座開設。全国から受講生受入 ※京大病院、京都府立医大病院が協力し講師派遣。21年9月～ 定員30名/年
連携推進	○がん診療連携協議会・部会(拠点病院間の連携) ○戦略会議(府立医大・京大の連携) ○「地域がん診療連携協力病院」の設置。近隣拠点病院と連携し診療連携会議開催等
その他支援	○拠点病院での国指針に基づく緩和ケア研修開催のため、府で先行実施(全国初。京都府立医大病院が積極的関与) →21年10月現在で修了者数全国5位(379名)

がん診療連携拠点病院が医療圏の数等を超えて指定されることによる相乗効果

化学療法・放射線療法等の専門医療従事者の確保	○がんプロフェッショナル養成プランで専門医療従事者養成(放射線治療医5名、がん薬物療法専門医21名、がん専門薬剤師3名、医学物理士・放射線治療品質管理士6名等)。府内への就職奨励。 ○府立医大・京大合同研修会の開催(化学療法) ○各拠点病院の特色を踏まえた研修の開催(京都府立医大・中核病院緩和ケアチーム向け研修、京都第一日赤・がん看護 等)
地域との連携推進	○京都府がん診療連携協議会に地域連携パス部会及びワーキンググループを設置。我が国に多いがん等について府域統一版の地域連携パスを作成予定。(前立腺がんについて統一パス試行)
緩和ケアの推進	○がん診療連携拠点病院の未設置医療圏における国指針に基づく研修の開催(山城北医療圏、各拠点病院から講師派遣)
患者等への情報提供の充実	○がん患者サロンを設置している拠点病院 20年度 3/9病院 → 21年度 6/9病院 ○相談支援センターのある二次医療圏 20年度 2/6医療圏 → 21年度 6/6医療圏

3 1 鳥 取 県

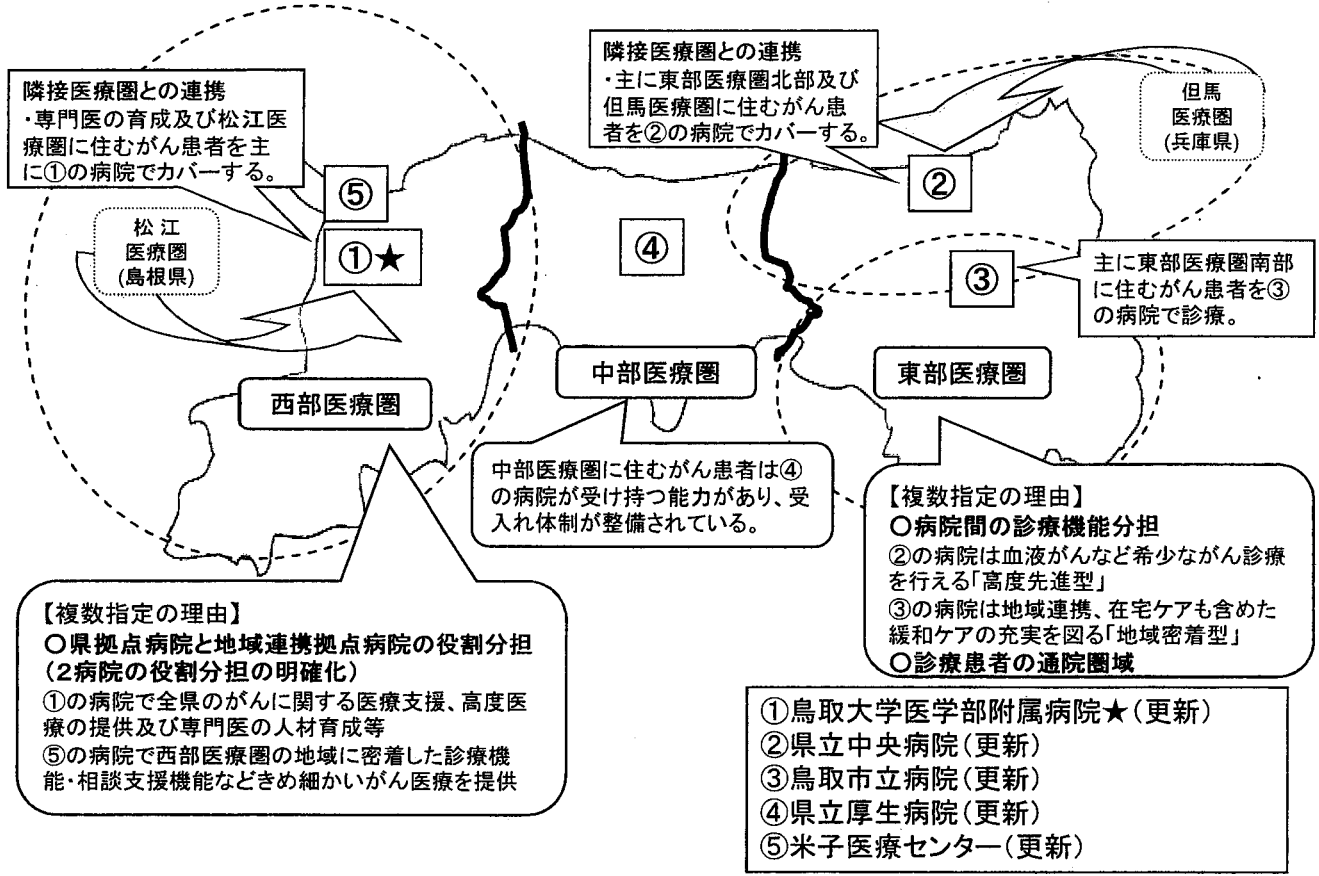
鳥取県 平成21年4月1日現在の指定状況と患者受療動向



※()内は平成20年10月末提出の数値、下段は平成21年10月末提出の数値

都道府県or地域	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		治療件数(手術件数)6~7月の集計										放射線治療		がんに係る薬物療法(8月~7月の集計)		緩和ケア	相談支援センター	地域連携	
			年間入院患者数(1月~12月)	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	肺がん	胃がん手術	大腸がん手術	肝臓がん	乳がん	年間患者実数(1月~12月)	薬物療法のべ患者数	緩和ケア	相談支援センター	地域連携								
			年間新入院患者数(1月~12月)	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	開胸手術	胸腔鏡下手術	開腹手術	内視鏡手術 粘膜切除術(EMR)	開腹手術	内視鏡手術	開腹手術	ラジオ波焼灼療法	乳癌手術	乳房再建術(乳房切除後)二期的に行うもの	体外照射	小線源治療	入院患者数	外来患者数	緩和ケア アチーアムに対する新規診療依頼数(6~7月の集計)	相談支援センター相談件数(6~7月の集計)	連携時共同指導料2(6~7月の集計)	
1 ★	更新	鳥取大学医学部附属病院	(3,357)	(29.0)	(329)	(4)	(10)	(4)	(2)	(10)	(3)	(2)	(26)	(11)	(0)	(386)	(0)	(289)	(121)	(11)	(42)	(0)
			2,354	18.6	176	4	22	7	0	10	1	0	18	12	0	313	10	240	211	9	44	0
2	更新	県立中央病院	(2,253)	(29.0)	(76)	(1)	(3)	(4)	(0)	(5)	(0)	(2)	(0)	(2)	(0)	(133)	(0)	(183)	(434)	(11)	(7)	(0)
			2,345	27.8	69	0	0	2	1	7	3	7	3	7	0	93	0	120	102	14	390	0
3	更新	鳥取市立病院	(1,601)	(20.3)	(52)	(5)	(4)	(11)	(0)	(12)	(2)	(11)	(0)	(6)	(0)	(130)	(0)	(112)	(207)	(27)	(254)	(0)
			1,227	17.6	106	8	1	8	0	14	4	2	1	6	0	109	3	57	121	12	360	0
4	更新	県立厚生病院	(866)	(17.0)	(47)	(0)	(7)	(10)	(0)	(3)	(1)	(0)	(3)	(8)	(0)	(104)	(0)	(140)	(254)	(0)	(101)	(0)
			909	17.8	39	0	5	5	3	7	0	3	2	9	0	103	0	220	157	0	129	0
5	更新	米子医療センター	(986)	(27.2)	(49)	(2)	(5)	(5)	(0)	(7)	(1)	(1)	(1)	(5)	(0)	(184)	(0)	(80)	(104)	(19)	(61)	(4)
			1,251	33.9	39	1	3	3	1	7	0	0	0	11	0	163	0	173	318	11	87	2

鳥取県 平成22年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



指定推薦に係る鳥取県の考え方

がん診療連携拠点病院の整備方針

- 本県のがん対策推進計画により、都道府県がん診療連携拠点病院を1病院、地域がん診療連携拠点病院を二次医療圏(東部・中部・西部)において、概ね1箇所程度整備する。
- 都道府県がん診療連携拠点病院を核に、地域性・専門性等を踏まえ各医療圏に指定された地域がん診療連携拠点病院と共に行う、県全域及び隣接県(鳥根県及び兵庫県)医療圏域の住民に対するがん医療の提供。
- 県民が身近な地域(各医療圏)で、安心して質の高いがん医療が受けられる診療体制の構築。
- がん診療連携拠点病院を中心とした地域医療との連携、がん医療の均てん化を実現する体制の推進。

二次医療圏数を超える数の医療機関を指定する理由

東部医療圏	1 病院間の診療機能分担	2 がん患者の通院圏域	3 複数指定されることの効果								
<p>県立中央病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ○腫瘍内科、血液がん、婦人科がんの学会認定専門医を配置し、幅広い高度の急性期がん医療を提供。 ○隣接医療圏の一部も視野に入れた、血液がんなど希少ながんの診療を行える「高度先進型」 <p>鳥取市立病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ○きめ細かい放射線治療体制及び緩和ケア体制の充実。(JASTRO認定協力施設) ○地域との連携、在宅ケアを含めた緩和ケアの充実を図る「地域密着型」 	<p>県立中央病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ○主に東部医療圏北部及び但馬医療圏(兵庫県北部地域)のがん医療の提供。 ■隣接医療圏からの入院患者率(H20) ・但馬医療圏 12.5% <p>鳥取市立病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ○主に東部医療圏南部を中心とするがん医療の提供。 ■2病院間の入院患者構成比(H20) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>中央病院</th> <th>市立病院</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療圏北部</td> <td>61%</td> <td>39%</td> </tr> <tr> <td>医療圏南部</td> <td>35%</td> <td>65%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※両院は外来患者数でも同様の傾向</p>	区分	中央病院	市立病院	医療圏北部	61%	39%	医療圏南部	35%	65%	<ul style="list-style-type: none"> ○圏域全体において、身近な地域で高度な質の高い医療の提供が図られる。 ○隣接医療圏の実質的な地域がん拠点病院機能の一部を果たす。 ○両病院の専門的医療体制の充実と、医療水準の向上。 ○両病院の特性を生かした連携による、がん医療の均てん化。 ○医療機器の共同利用などにより、早期診断を図っており、診療の連携協力体制の整備がより一層図られる。
区分	中央病院	市立病院									
医療圏北部	61%	39%									
医療圏南部	35%	65%									

二次医療圏数を超える数の医療機関を指定する理由

西部医療圏

1 都道府県がん診療連携拠点病院との役割分担

- 鳥取大学医学部附属病院** (都道府県診療連携拠点病院)
- 全県を見据えた積極的な集学的治療
 - 各種がん関連学会専門医を始めとする、県全体でがん医療に携わる人材を育成する機能
 - 地域がん診療連携拠点病院等に対する情報提供、診療支援機能
 - 隣接する医療圏(松江医療圏)のがん医療の提供。(島根県で策定されている「島根県保健医療計画」において専門的ながん診療を担う医療機関として位置づけ)
- 隣接医療圏からの入院患者率(H20) : 松江医療圏 17%

- 米子医療センター** (地域がん診療連携拠点病院)
- 地域に密着した診療機能・相談支援機能体制
 - 放射線治療や緩和医療などを含めたきめ細かいがん医療を提供
 - 地域の医療従事者を対象とした在宅療養に向けた研修、地域住民を対象としたフォーラム等の開催など、地域密着型の研修、啓発活動

2 複数指定されることの効果

- 今後とも2病院の役割分担を明確にし、それぞれの機能を十分に発揮できるよう、ハード及びソフトの両面からがん診療連携拠点病院を整備することで、がん医療水準の均てん化が推進される。
- 西部医療圏でのより充実したがん診療体制の向上につながるものと期待される。

拠点病院推薦書チェックリストで指摘された項目について

『緩和ケアチームと主診療科との定期カンファレンス開催記録』(別紙11)

※整備指針:週1回程度の開催(2ヶ月間で8回程度<許容範囲は4回以上>)

県立厚生病院

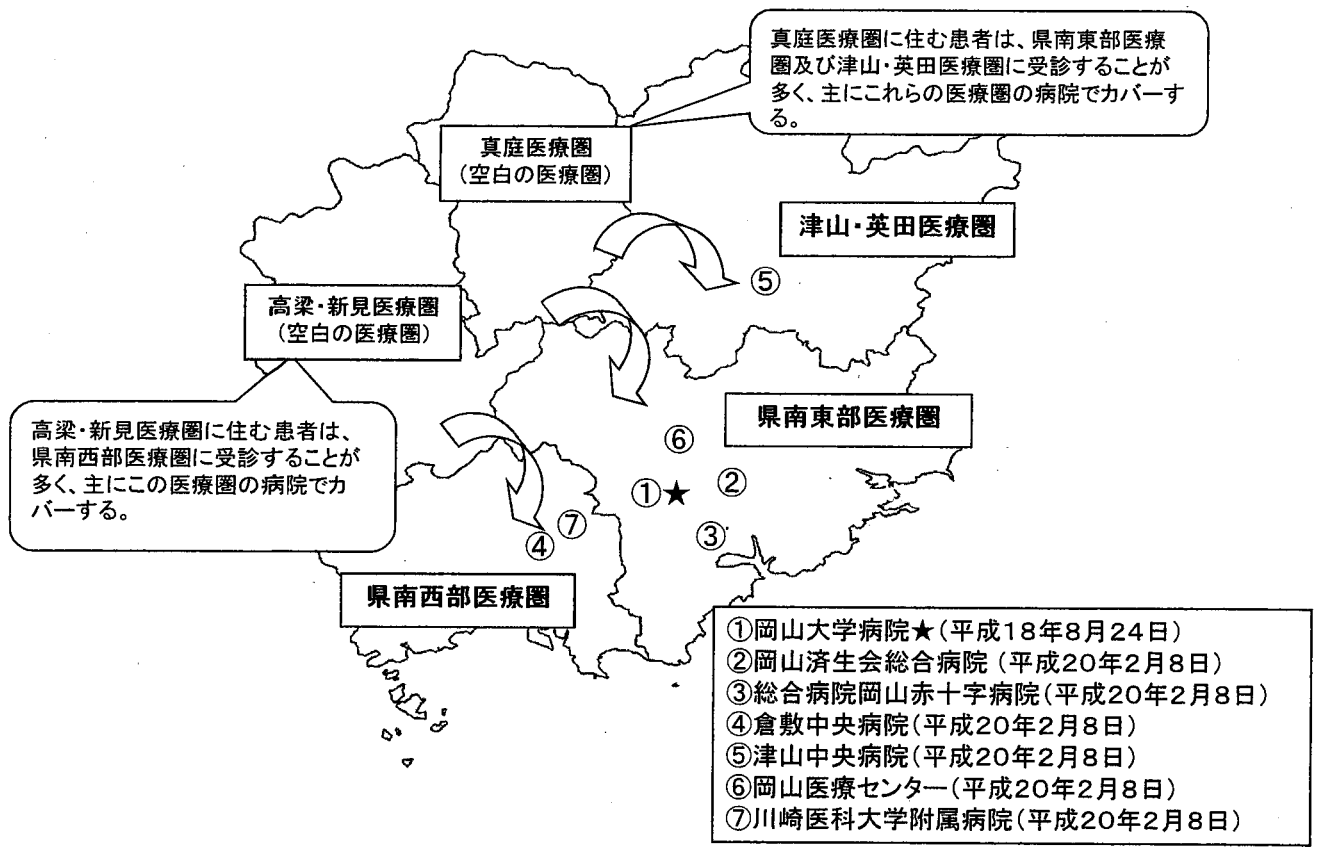
○ カンファレンス開催状況

・調査期間の6月は疼痛コントロール不良の患者がなかったため開催実績がなく、7月に4回の症例検討実績があり、許容範囲内で要件を満たしている。8月以降は4回(月/回)程度のカンファレンスを開催。

○ 今後の開催方針

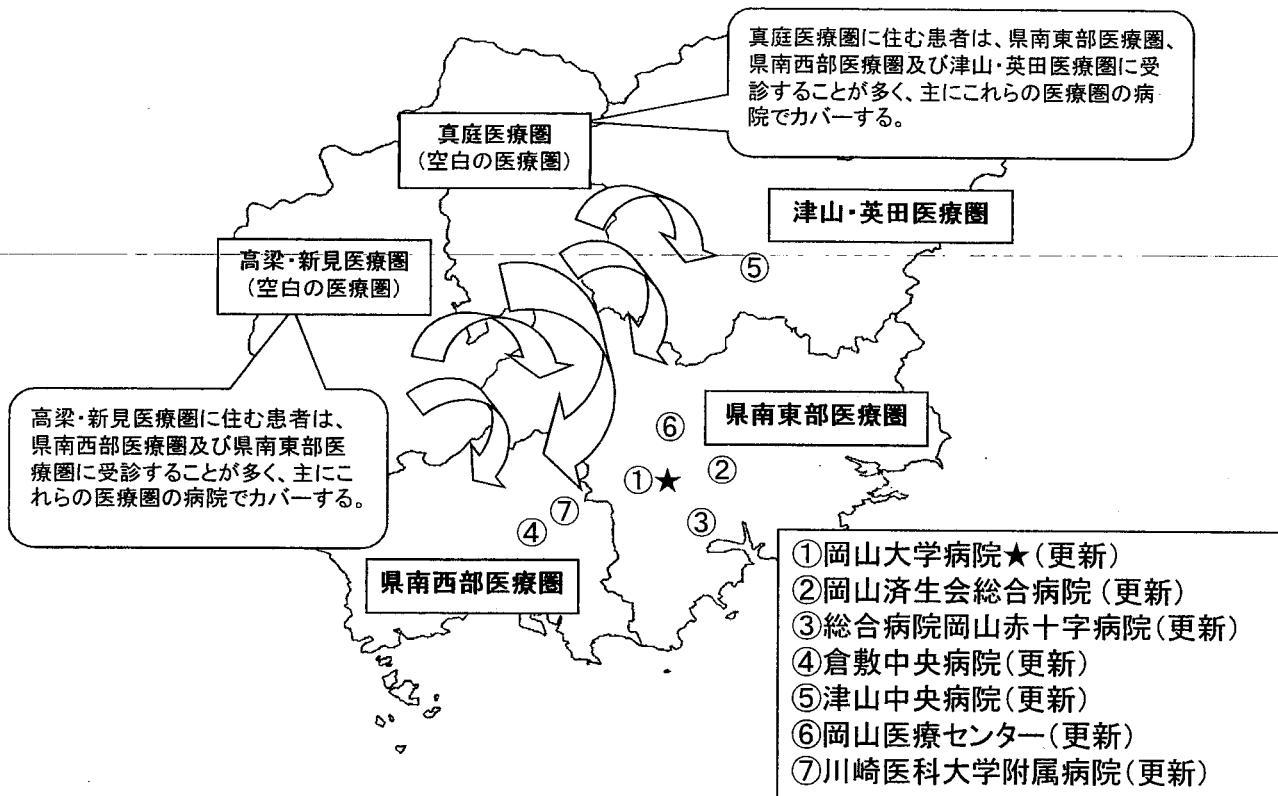
・確実に週1回(毎週木曜日)のカンファレンスを定期開催することとしている。

岡山県 平成21年4月1日現在の指定状況と患者受療動向



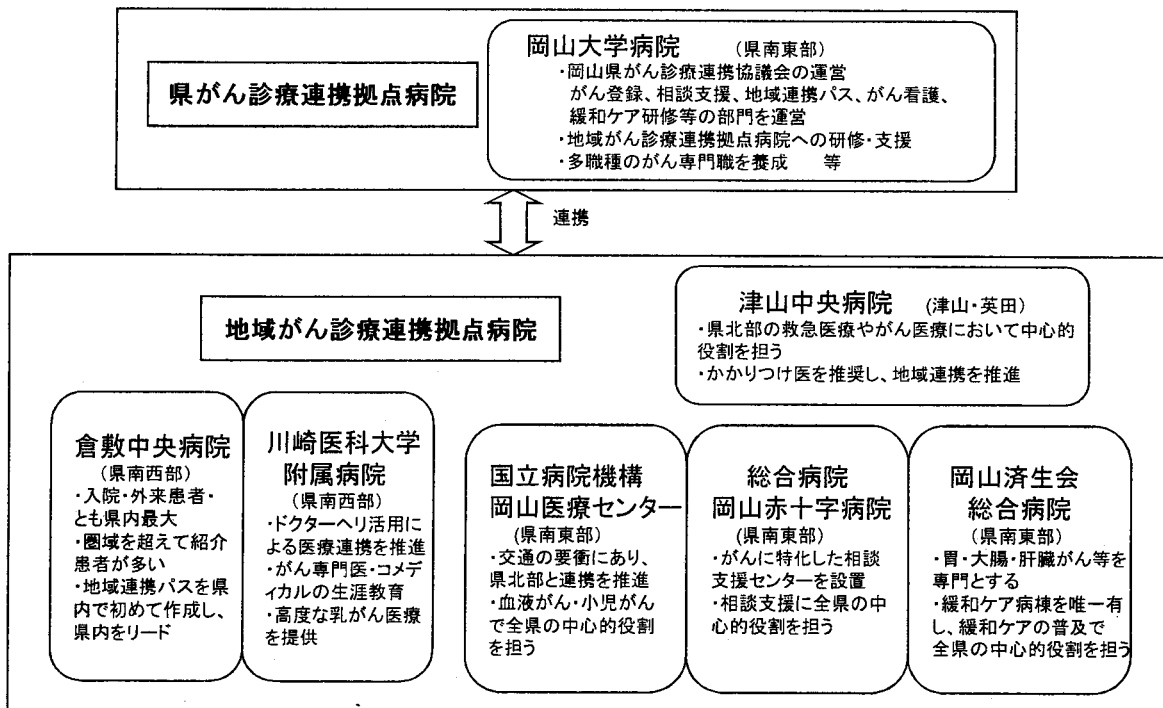
県 or 地域	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		治療件数(手術件数) 6~7月の集計										放射線治療		がんに係る薬物療法(6月~7月の集計)		緩和ケア		相談支援センター		地域連携
			年間新入院がん患者数(1月~12月)	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	悪性腫瘍手術総数	肺がん		胃がん手術		大腸がん手術		肝臓がん		乳がん		年間患者実数(1月, 12月)	薬物療法のべ患者数		緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(6~7月の集計)	相談支援センター相談件数(6~7月の集計)	退院共同指導料2(6~7月の集計)		
						開胸手術	胸腔鏡下手術	開腹手術	内視鏡手術 粘膜切除術(EMR)	開腹手術	内視鏡手術	開腹手術	内視鏡手術	ラジオ波焼灼療法	乳癌手術		乳房再建術(乳房切除後)二期的に行うもの	体外照射				小線源治療	
1 県	更新	岡山大学病院	(1951) 2087	(12.8) 13.7	(278) 317	(9) 13	(24) 22	(17) 10	(0) 0	(21) 7	(6) 11	(5) 17	(48) 35	(21) 24	(0) 0	(611) 275	(139) 114	(374) 472	(448) 470	(8) 8	(72) 93	(0) 0	
2 地域	更新	岡山済生会総合病院	(2846) 2859	(22.8) 23.0	(176) 210	(3) 1	(13) 3	(21) 22	(1) 0	(30) 33	(3) 1	(24) 13	(33) 53	(14) 9	(0) 0	(246) 318	(0) 0	(143) 107	(663) 210	(14) 25	(55) 84	(0) 0	
3 地域	更新	総合病院岡山赤十字病院	(1633) 1713	(15.4) 15.3	(71) 66	(3) 3	(7) 16	(11) 7	(0) 0	(2) 3	(0) 0	(2) 2	(3) 2	(15) 6	(0) 0	(165) 233	(0) 0	(99) 92	(95) 89	(23) 27	(62) 91	(0) 0	
4 地域	更新	倉敷中央病院	(6885) 6895	(22.4) 22.5	(234) 265	(5) 8	(17) 31	(30) 35	(5) 5	(28) 35	(4) 1	(3) 2	(20) 14	(26) 16	(0) 0	(607) 605	(5) 5	(736) 541	(345) 442	(13) 6	(222) 184	(0) 10	
5 地域	更新	津山中央病院	(1853) 1794	(18.1) 17.7	(129) 142	(2) 1	(6) 7	(21) 19	(0) 0	(19) 15	(1) 2	(0) 2	(2) 10	(10) 6	(0) 0	(173) 179	(0) 0	(61) 124	(227) 651	(16) 15	(77) 118	(0) 0	
6 地域	更新	国立病院機構岡山医療センター	(3519) 3568	(24.6) 25.3	(86) 222	(4) 3	(18) 17	(8) 12	(0) 0	(15) 7	(1) 2	(5) 6	(0) 1	(8) 4	(0) 0	(199) 226	(0) 0	(149) 180	(51) 120	(8) 10	(52) 49	(0) 0	
7 地域	更新	川崎医科大学附属病院	(3682) 3242	(26.0) 22.2	(175) 102	(5) 4	(16) 6	(19) 15	(0) 8	(32) 10	(6) 4	(3) 2	(6) 3	(42) 38	(3) 1	(562) 586	(67) 117	(217) 210	(251) 301	(15) 12	(82) 243	(0) 0	

岡山県 平成22年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



今回の指定推薦に係る岡山県の考え方

県内のがん医療の推進は、県がん診療連携拠点病院である岡山大学病院を中心に6つの地域がん診療連携拠点病院がそれぞれの特徴を生かして、得意分野などで県全体をリードし、高いレベルでの均てん化に貢献するとともに、圏域の枠を超えて相互に緊密に連携し、一丸となつてがん医療の充実・向上に取り組んでいくことが重要であると考えています。



《圏域ごとの推薦病院について》

- 県南東部医療圏は、面積が広大で、多数の人口を擁し、県中北部の整備されていない「高梁・新見」「真庭」の2つの医療圏の専門的ながん医療をカバーし、また特定の分野ごとに全県的な役割を担う病院があることから、複数の地域がん診療連携拠点病院が必要である。また県がん診療連携拠点病院がこの医療圏に位置し、がん診療連携協議会の積極的な運営や医療連携体制の推進を担っている。

よって、県がん診療連携拠点病院として1病院 岡山大学病院、また地域がん診療連携拠点病院として、3病院 岡山済生会総合病院、総合病院岡山赤十字病院、国立病院機構岡山医療センターを推薦する。

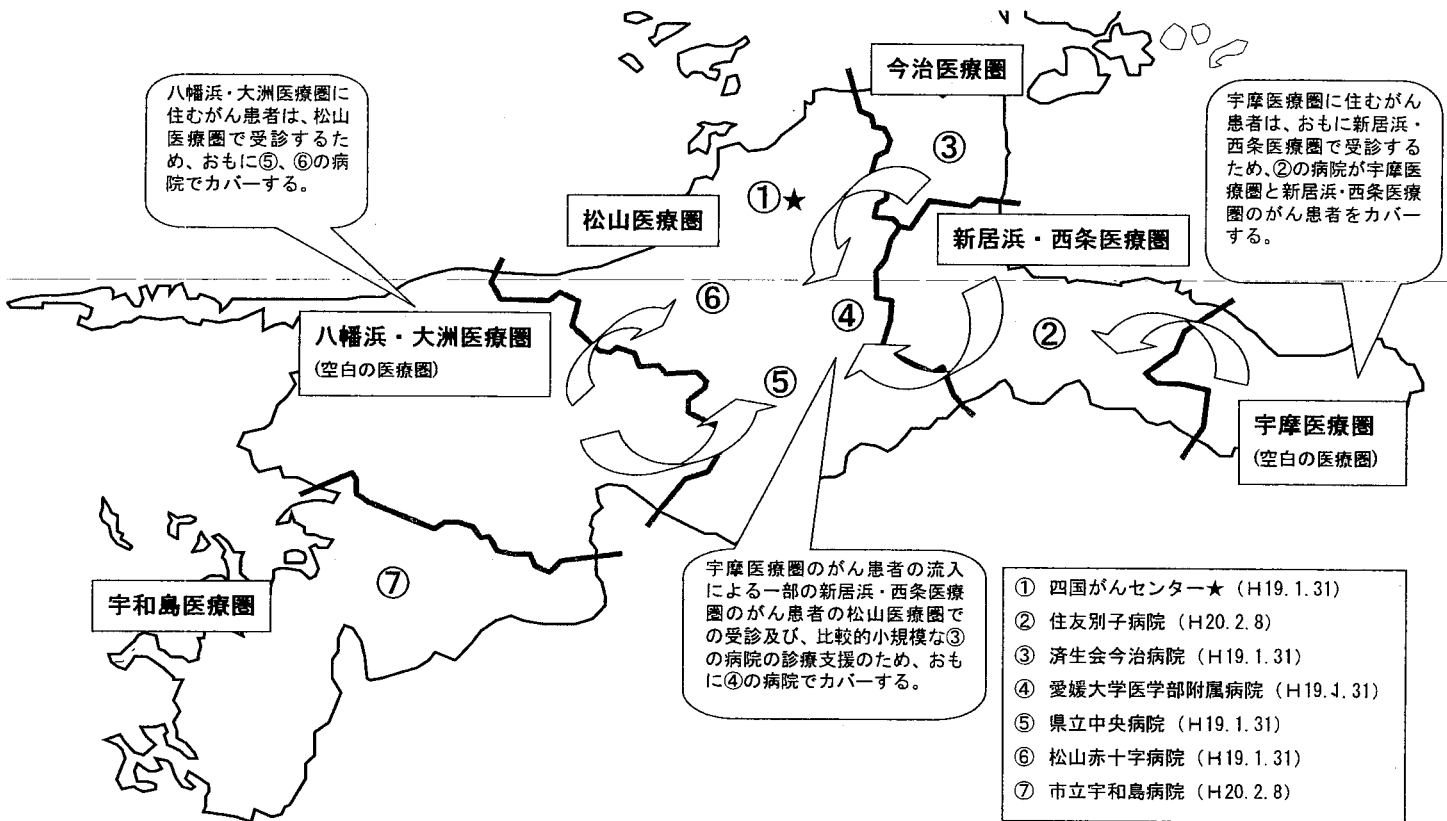
- 県南西部医療圏は、多数の人口を擁し、県中北部の整備されていない「高梁・新見」、「真庭」の2つの医療圏の専門的ながん医療をカバーし、また特定の分野ごとに全県的な役割を担う病院があることから、複数の地域がん診療連携拠点病院が必要である。

よって、地域がん診療連携拠点病院として、2病院 倉敷中央病院、川崎医科大学附属病院を推薦する。

- 津山・英田医療圏においては、県中北部の中核医療機関である津山中央病院を地域がん診療連携拠点病院として推薦する。

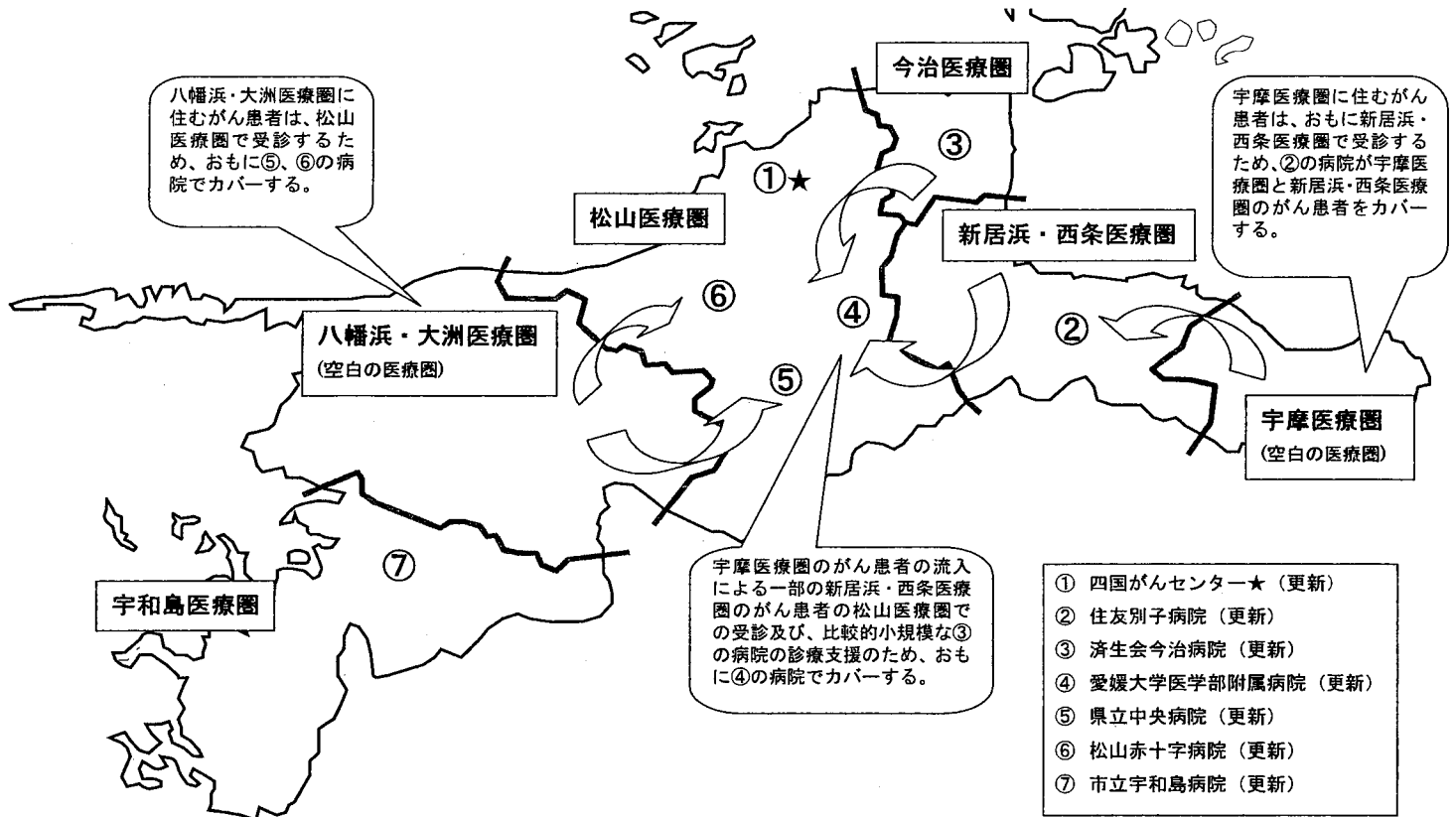
愛媛県 平成21年4月1日現在の指定状況と患者受療動向

資料1



資料2

都道府県 or地域	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		治療件数(手術件数)6~7月の集計										放射線治療		がんに係る薬物療法(6~7月の集計)		緩和ケア	相談支援センター	地域連携		
			年間新入院がん患者数(1月~12月)	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	悪性腫瘍手術総数	肺がん		胃がん手術		大腸がん手術		肝臓がん		乳がん		年間患者実数(1月~12月)		薬物療法の数					
						開胸手術	胸腔鏡手術	開腹手術	内視鏡手術 粘膜切除(EMR)	開腹手術	内視鏡手術	開腹手術	ラジオ波焼灼療法	乳癌手術	乳房再建術(乳房切除後二期に行うもの)	体外照射	小線源治療	入院患者数				外来患者数	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(6~7月の集計)
1	★	更新	四国がんセンター	(6,239)	(89.9)	(378)	(11)	(9)	(32)	(1)	(15)	(1)	(5)	(9)	(75)	(0)	(756)	(69)	(493)	(1,454)	(29)	(1,530)	(1)
				7,004	99.0	443	7	31	36	1	28	2	8	0	81	0	1,094	34	373	562	60	1,620	0
2		更新	住友別子病院	(1,060)	(16.2)	(65)	(0)	(0)	(4)	(1)	(6)	(3)	(1)	(6)	(9)	(0)	(120)	(0)	(44)	(51)	(5)	(283)	(0)
				1,475	23.1	69	2	5	6	3	6	1	4	0	2	0	113	0	38	58	3	44	0
3		更新	済生会今治病院	(747)	(19.9)	(52)	(2)	(0)	(11)	(0)	(8)	(1)	(2)	(8)	(3)	(0)	(60)	(0)	(21)	(52)	(7)	(102)	(0)
				621	17.3	49	0	1	8	0	14	2	0	10	7	0	60	0	28	53	2	228	0
4		更新	愛媛大学医学部附属病院	(5,762)	(60.6)	(185)	(6)	(2)	(3)	(1)	(10)	(0)	(0)	(19)	(9)	(0)	(327)	(23)	(214)	(95)	(8)	(38)	(0)
				1,328	14.1	125	4	5	4	0	3	0	3	22	4	0	317	27	201	84	6	24	0
5		更新	県立中央病院	(2,558)	(17.1)	(138)	(8)	(2)	(24)	(0)	(27)	(0)	(11)	(29)	(12)	(0)	(453)	(0)	(145)	(165)	(5)	(12)	(0)
				2,768	18.6	176	1	16	14	0	20	0	9	22	15	0	313	0	185	258	4	12	1
6		更新	松山赤十字病院	(2,960)	(19.1)	(121)	(1)	(5)	(10)	(2)	(15)	(4)	(3)	(43)	(5)	(0)	(163)	(0)	(46)	(100)	(15)	(44)	(19)
				2,712	18.1	143	2	9	11	0	23	5	4	15	5	0	159	0	127	27	25	18	5
7		更新	市立宇和島病院	(1,826)	(19.4)	(50)	(2)	(3)	(10)	(0)	(12)	(0)	(0)	(1)	(12)	(0)	(181)	(0)	(126)	(113)	(43)	(72)	(0)
				1,626	18.3	106	3	3	11	0	15	4	3	3	7	0	132	0	65	106	28	207	0



愛媛県における各がん診療連携拠点病院の役割

●本県におけるがん診療体制について

本県の6つの2次医療圏のうち、宇摩医療圏及び八幡浜・大洲医療圏は、拠点病院としての要件を満たす医療機関がないため、がん診療については、地理的条件や交通事情、医療機能の集積状況等を踏まえ、それぞれ隣接する新居浜・西条医療圏、松山医療圏と一体的な診療体制を整備することにより、県内4つの『がん医療圏』として集約化を図った上で、各医療圏に拠点病院を配置し、県内全域をカバーできる体制を整備している。

●松山医療圏に4病院を整備する理由（4病院：四国がんセンター、愛媛大学医学部附属病院、県立中央病院、松山赤十字病院）

愛媛県入院患者調査（平成16年）の結果では、がん患者は高度な医療機能の集積する松山医療圏に集中する傾向が顕著である。

（1）患者の受療動向

県内のがんによる入院患者（病院の入院患者、以下同じ）の約60%が松山医療圏に集中し、松山医療圏に所在する病院の入院患者の31%は他の医療圏からの流入患者であり、県内の111病院の入院患者の43%、松山医療圏に所在する病院の入院患者の75%（878人）を当該4病院で受け入れている。

（2）他の2次医療圏との関係

宇摩医療圏の患者の3割が隣接の新居浜・西条医療圏、2割が松山医療圏に流出し、新居浜・西条医療圏の患者の2割強も松山医療圏に流入しており、また八幡浜・大洲医療圏の患者の4割強は、隣接する松山医療圏に流出しているため、松山医療圏の拠点病院の診療支援は不可欠である。なお、今治医療圏は離島が多い等の地理的条件を考慮し拠点病院を整備するが、より高度な医療を行うには松山医療圏の拠点病院との連携が必要である。

（3）拠点病院間の機能分担

次頁「医療機関の機能・役割」のとおり

よって、相互の機能や役割分担のもと、本県のがん診療の質的向上を図るための効率・効果的な体制を構築するとともに、県内のがん医療の均てん化を推進する観点から、他の医療圏を支援する体制を構築するために、がん専門病院である四国がんセンターを都道府県拠点病院とし、高度な診療機能を有し、従来から緊密な連携関係にある愛媛大学医学部附属病院、県立中央病院、松山赤十字病院の3病院が主導的役割を果たしていくことが不可欠である。

●未充足要件について

済生会今治病院は、年間入院がん患者数が621人（H20年1～12月）であり、1200人を超えていない。これは、病床数171床という中規模病院であることと、四国がんセンターの新築移転、複数常勤医師の退職・転任が影響していると思われるが、平成22年度から新たに常勤医師の派遣を得られる予定であることと、平成21年12月からリニアックが稼働したことにより、入院患者数は今後、増加に転じるものと見込まれる。今治医療圏では、150床を超える医療機関は3病院（うち1つは精神病床のみ）と、中小規模の病院が多い地域であるうえに、面積の3割以上が島嶼部という交通が不便な地域を抱えており、今治医療圏の住民の利便性の確保、医療機関への的確な支援等を十分に行うためには、済生会今治病院が引き続き同医療圏の拠点病院として機能を担ったうえで、松山医療圏の拠点病院と連携することにより、今治医療圏のがん医療の充実を図る。

市立宇和島病院では、もともと精神科を標榜しておらず、同医療圏に300以上の精神病床のみを有する正光会宇和島病院と連携・協力し、患者の治療を行っていたため、緩和ケアチームに精神科医師が配置されていなかった。今回の指定更新にあたり、正光会宇和島病院及び医師派遣を実施している愛媛大学医学部に精神科医の派遣を依頼していたが、医師不足の中で困難を要した。市立宇和島病院は宇和島医療圏のみならず、拠点病院が存在しない隣接する八幡浜医療圏も含めた南予地域で唯一の拠点病院であり、欠くことのできない重要な拠点病院であるため、県としても強く協力要請を行っていたところ、正光会宇和島病院から、平成22年4月から週1回（半日若しくは1日）医師派遣に協力する申し出があり、市立宇和島病院では現在、正光会宇和島病院から医師派遣を前提とした、緩和ケアチームの体制整備を行っている。

◆都道府県拠点病院（1病院）

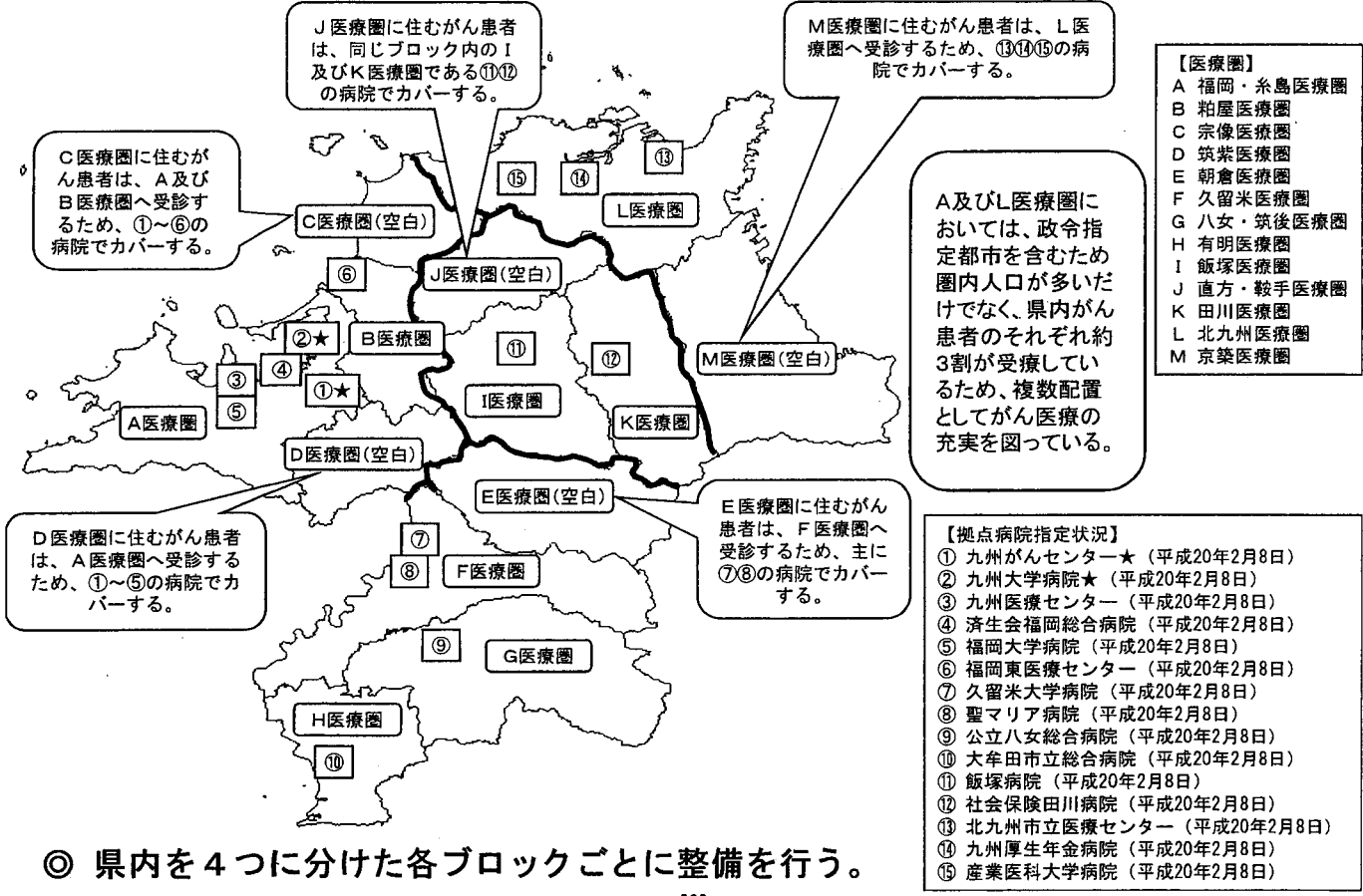
医療機関名	医療機関の機能・役割
四国がんセンター (2次医療圏：松山) (がん医療圏：全県)	<ul style="list-style-type: none"> ○全国がん（成人病）センター協議会の加盟施設としての機能を発揮し、最新技術の本県への導入の拠点とする。 ○都道府県拠点病院として県がん診療連携協議会を主宰する。 ●がん専門病院として全県の医療機関に対する支援を行う。【松山 44%、今治 15%、八幡浜・大洲 15%、新居浜・西条 14%】

◆地域拠点病院（6病院）

2次医療圏	がん医療圏	医療機関名	医療機関の機能・役割
宇摩(空白) 新居浜・西条	東予	住友別子病院	○空白の医療圏である「宇摩医療圏」を含め、東予地域において、高度ながん診療を行う。
今治	今治	済生会今治病院	○離島の住民の診療、医療圏内の中小医療機関の支援を重点的に行い、中予地域の医療機関と連携しつつ、今治地域において高度ながん診療を行う。
松山	中予	愛媛大学医学部附属病院	<ul style="list-style-type: none"> ○特定機能病院及び大学病院として、高度ながん診療はもとより、次の機能を発揮する。 <ul style="list-style-type: none"> ・症例の少ないがんの診療を行う。 ・がん診療のプロフェッショナルの育成等、専門職の養成を図る。 ・県内医師に対し、大学の教育機能を活かした研修を行う。 ・医療機関への医師派遣を通じて、県内の医療技術の向上を図る。 ●特に、空白の「宇摩医療圏」も担当する住友別子病院（「新居浜・西条医療圏」）、比較的小規模である済生会今治病院（「今治医療圏」）の診療支援を行う。【松山 44%、新居浜・西条 19%、今治 17%】
八幡浜・大洲(空白)		県立中央病院	<ul style="list-style-type: none"> ○中予地域の拠点病院であるとともに、本県の基幹病院として、高度な医療を行う。 ○県内5医療圏にある県立5病院の拠点として、遠隔画像システムや医師派遣等を通じて各県立病院の診療支援を行う。 ○造血細胞移植療法、ガンマナイフ治療等の特徴とする。 ○PET-CTセンターを稼働させ、県内全域の病院・診療所の検査機関として機能している。 ●特に、空白の「八幡浜・大洲医療圏」のがん患者の診療と医療機関の診療支援を行う。【松山 70%、八幡浜・大洲 20%】
		松山赤十字病院	<ul style="list-style-type: none"> ○中予地域において、高度ながん診療を行うとともに、「松山医療圏」の地域医療支援病院として医療圏内の医療機関と緊密な連携体制を築いている。 ○がんの分野においても、かかりつけ医を交えたカンファレンス等を積極的に行っているほか、地域のかかりつけ医やホスピス病院と共同して、緩和ケアも含めた在宅医療の充実を推進しており、がんにおける病連携・病診連携、がんの在宅医療推進の先駆的役割を果している。 ○大腸がん、肝がん等の診療体制が充実している。 ●特に、空白の「八幡浜・大洲医療圏」のがん患者の診療と医療機関の診療支援を行う。【松山 85%、八幡浜・大洲 10%】
宇和島	南予	市立宇和島病院	○南予地域において、高度ながん診療を行うことにより、医療圏内完結のがん診療体制を構築する。

40 福岡県

福岡県 平成21年4月1日現在の指定状況と患者受療動向



◎ 県内を4つに分けた各ブロックごとに整備を行う。

福岡県 診療実績等の比較

都道府県 の地域	申請 区分	病院名	年間入院患者数の 状況			治療件数(手術件数)6月~7月										放射線治療		がんに係る薬物 療法(6月~7月)		緩和 ケア	相談支 援セン ター	地域 連携
			年間新 入院が ん患者 数(1月 ~12月)	年間新 入院患 者数に 占める がん患 者の割 合(%)	悪性腫 瘍手術 総数	肺がん		胃がん		大腸がん		肝臓がん		乳がん		患者実数 (1月~12月)		薬物療法 のべ患者数				
						開胸手 術	胸腔鏡 下手術	開腹手 術	内視鏡 手術粘 膜切除 術(EM R)	開腹手 術	内視鏡 手術	開腹手 術	ランオ 液焼灼 療法	乳癌再 建術(乳 房切除 後)二期 的に行 うもの	乳癌手 術	体外照 射	小線源 治療	入院患 者数	外来患 者数			
1	★更新	九州がんセンター	(5,435) 4,781	(87.4) 88.3	(156) 176	(1) 4	(27) 14	(9) 9	(0) 2	(16) 24	(0) 1	(7) 4	(0) 9	(59) 60	(0) 0	(742) 771	(29) 35	(537) 584	(361) 394	(60) 84	(596) 408	(0) 0
2	★更新	九州大学病院	(6,475) 8,771	(33.0) 44.0	(485) 1,387	(18) 21	(4) 10	(8) 16	(3) 6	(8) 12	(7) 5	(18) 12	(2) 6	(37) 37	(0) 0	(1,210) 1,170	(80) 58	(375) 430	(239) 364	(45) 40	(144) 205	(1) 0
3	更新	九州医療センター	(4,474) 4,150	(29.1) 27.1	(217) 370	(5) 1	(11) 22	(19) 20	(1) 0	(20) 32	(0) 3	(3) 2	(2) 5	(17) 20	(0) 0	(454) 204	(36) 28	(264) 252	(581) 314	(2) 3	(67) 78	(0) 0
4	更新	済生会福岡総合病院	(1,716) 1,776	(19.5) 19.4	(121) 128	(1) 1	(3) 6	(7) 7	(0) 0	(8) 24	(6) 4	(2) 3	(12) 5	(9) 11	(0) 0	(252) 294	(0) 0	(113) 93	(207) 135	(15) 18	(291) 51	(0) 1
5	更新	福岡大学病院	(2,910) 2,231	(20.1) 15.5	(175) 316	(11) 23	(9) 13	(17) 15	(0) 4	(12) 23	(2) 6	(4) 0	(0) 20	(18) 9	(0) 0	(493) 620	(17) 15	(158) 266	(188) 88	(11) 21	(172) 172	(2) 3
6	更新	福岡東医療センター	(332) 728	(4.9) 10.5	(46) 49	(6) 6	(3) 5	(5) 8	(0) 0	(7) 7	(0) 2	(1) 6	(4) 4	(4) 3	(0) 0	(185) 208	(0) 0	(101) 93	(41) 38	(0) 1	(15) 29	(13) 4
7	更新	久留米大学病院	(4,610) 4,588	(28.2) 28.2	(258) 315	(12) 15	(7) 2	(21) 26	(0) 0	(18) 20	(3) 4	(16) 21	(30) 58	(15) 14	(1) 0	(876) 923	(21) 20	(271) 417	(283) 477	(21) 14	(99) 66	(0) 0
8	更新	聖マリア病院	(1,801) 1,886	(11.4) 12.5	(141) 81	(0) 1	(1) 0	(12) 6	(0) 0	(9) 14	(1) 1	(4) 0	(2) 0	(7) 8	(1) 1	(218) 196	(39) 142	(183) 101	(241) 101	(2) 9	(21) 38	(0) 0

※()内は平成20年10月末提出の数値、下段は平成21年10月末提出の数値 ※申請区分は資料3の作成要領を参照のこと
 ※一枚につき11病院を超える場合には、2枚にわたって表を作成してください。

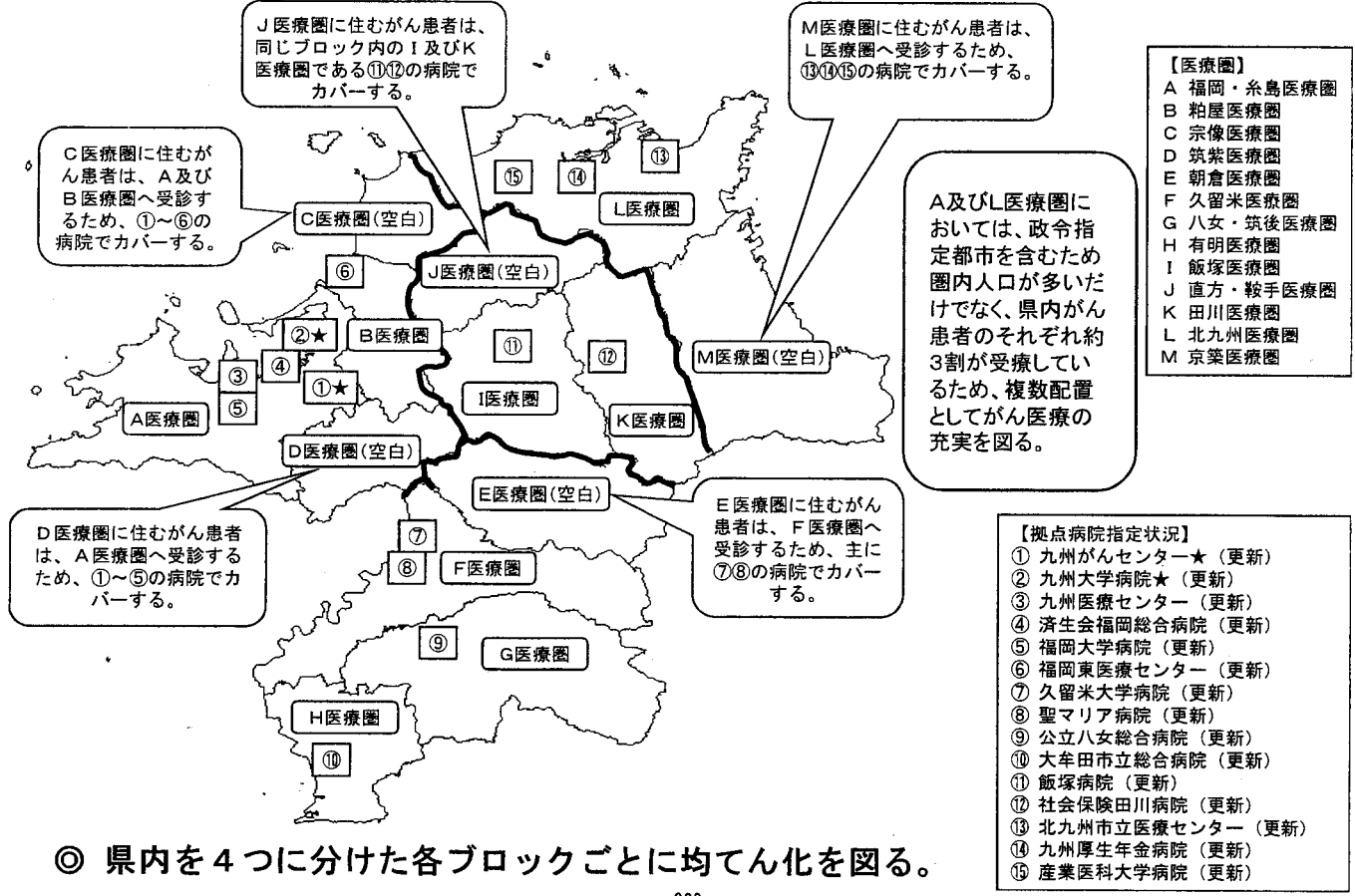
福岡県 診療実績等の比較

都道府県 or 地域	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況			治療件数(手術件数)6月~7月										放射線治療		がんに係る薬物療法(6月~7月)		緩和ケア		相談支援センター		地域連携
			年間入院患者数(1月~12月)	年間新入院患者数に占めるがん患者者の割合(%)	悪性腫瘍手術総数	肺がん		胃がん		大腸がん		肝臓がん		乳がん		患者実数(1月~12月)		薬物療法への患者数		緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(6月~7月)	相談支援センター相談件数(6月~7月)			
						開胸手術	胸腔鏡下手術	開腹手術	内視鏡手術	開腹手術	内視鏡手術	開腹手術	内視鏡手術	ラジオ波焼灼療法	乳癌手術	乳房再建術(乳房切除後)二期的に行うもの	体外照射	小線源治療	入院患者数			外来患者数		
9	更新	公立八女総合病院	(1,323) 1,340	(21.3) 22.2	(173) 143	(1) 2	(3) 4	(12) 10	(0) 2	(6) 5	(1) 2	(1) 3	(30) 5	(4) 11	(0) 0	(195) 131	(0) 0	(61) 50	(85) 120	(6) 4	(39) 52	(0) 0		
10	更新	大牟田市立総合病院	(974) 1,500	(13.8) 21.3	(97) 98	(0) 0	(1) 1	(0) 4	(0) 2	(7) 7	(0) 0	(3) 2	(6) 3	(6) 9	(0) 0	(177) 117	(4) 2	(89) 111	(325) 110	(3) 9	(15) 15	(0) 0		
11	更新	飯塚病院	(3,598) 4,135	(21.8) 24.8	(599) 656	(14) 10	(8) 6	(14) 21	(1) 1	(20) 4	(10) 10	(11) 12	(23) 0	(16) 19	(0) 0	(401) 388	(14) 13	(674) 446	(531) 264	(2) 17	(8) 12	(0) 0		
12	更新	社会保険田川病院	(1,225) 1,376	(23.0) 24.7	(82) 48	(0) 0	(1) 0	(19) 8	(1) 1	(13) 5	(7) 5	(0) 0	(1) 1	(5) 6	(0) 0	(0) 17	(0) 0	(24) 34	(68) 75	(11) 10	(17) 58	(0) 0		
13	更新	北九州市立医療センター	(3,811) 3,811	(40.0) 41.3	(232) 264	(19) 4	(19) 13	(9) 9	(0) 1	(11) 4	(6) 5	(5) 2	(0) 0	(55) 64	(0) 0	(735) 526	(81) 14	(926) 231	(913) 466	(10) 11	(226) 165	(0) 0		
14	更新	九州厚生年金病院	(4,125) 4,316	(32.5) 33.5	(198) 194	(17) 13	(4) 1	(1) 13	(1) 1	(11) 8	(11) 13	(2) 2	(15) 19	(22) 20	(0) 0	(361) 375	(30) 41	(160) 197	(550) 497	(43) 47	(57) 123	(0) 0		
15	更新	産業医科大学病院	(2,957) 3,051	(26.5) 26.9	(228) 240	(7) 1	(13) 15	(8) 1	(6) 1	(6) 6	(1) 5	(4) 4	(6) 7	(12) 5	(0) 0	(734) 891	(9) 8	(224) 174	(229) 199	(10) 15	(209) 34	(0) 0		

※()内は平成20年10月末提出の数値、下段は平成21年10月末提出の数値 ※申請区分は資料3の作成要領を参照のこと
※一枚につき11病院を超える場合には、2枚にわたって表を作成してください。

資料 3

福岡県 平成22年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



福岡県 がん診療連携拠点病院の整備について

1 整備方針

現在と同様、県拠点病院2か所、地域拠点病院13か所を、以下のとおり整備する。

(1) 福岡県がん診療連携拠点病院の整備 県内2か所

以下の機能を重視して整備する。

ア 連携及び調整機能 イ がん登録の推進機能 ウ 教育及び研修機能

(2) 地域がん診療連携拠点病院の整備 県内13か所

二次医療圏単位を基準とし、二次医療圏に指定要件を満たす医療機関がない場合は、県内を4つ（福岡、筑後、筑豊、北九州）に分けたブロック単位で整備することにより、がん医療の均てん化を図る。

ブロック	人口	二次医療圏数	地域拠点病院整備数
福岡	約248万人	4	4
筑後	約84万人	4	4
筑豊	約43万人	3	2
北九州	約131万人	2	3
合計	約506万人	13	13

2 福岡県がん診療連携拠点病院

福岡県においては、がんの診療及び連携体制を強力かつ効果的に推進するため、これまでと同様に九州がんセンターと九州大学病院の2か所を推薦する。

【2か所を推薦する理由】

- 福岡県におけるがん医療は、県外からの患者の流入も認められることから、九州全域を網羅する必要があるといっても過言ではない。そのため、より高度で広範囲ながん医療の提供が求められる。
- 両病院とも、県拠点病院としての要件を充分満たしているが、がん診療情報ネットワークやがん登録については九州がんセンターがより優れた機能を持っている。一方、高度で専門的ながん医療の提供や専門医師の育成等には、大学病院の主體的関与が必須であり、福岡県では、県内4大学が「九州がんプロフェッショナル養成プラン」として、共同で実施することとなっており、九州大学病院は、その代表として、他の3大学病院から推薦を受けている。
- 現在、がん対策やがん医療に対する県内の医療機関の関心は非常に高まっており、今年度新規に拠点病院指定を希望する病院もあった。このような状況の中、県内のがん医療を牽引し、医療機関間のネットワークを構築するためには、九州がんセンターと3大学病院の推薦を受けた九州大学病院が互いに協力し合い、先駆的・指導的役割を果たしていくことが必要不可欠である。
- 平成20年2月8日に指定を受けて以来、両県拠点病院は相互に協力し合いながら拠点病院の指定を受けて間もない医療機関も多い本県の拠点病院の中において、先駆的・指導的役割を果たしていると考えられる。特に、連携協議会においては、互いに役割分担しながら3つの専門部会を設置し、専門部会の下部組織であるワーキングチームについても積極的に開催することなどにより、本県におけるがん医療提供体制の充実を図ってきたところである。

-207-

福岡県 がん診療連携拠点病院の整備について

3 地域がん診療連携拠点病院

福岡県においては、現在地域拠点病院として指定を受けている下記13病院について、指定更新の推薦を行う。

○ 二次医療圏の単位を念頭に置き、県内を4つ（福岡、筑後、筑豊、北九州の4圏域）に分けたブロック単位で整備する。

○ 地域がん診療連携拠点病院を二次医療圏数と同じ13病院推薦し、推薦医療機関が存在しない空白の二次医療圏も存在するが、下記の受療動向や人口等を考慮したブロック単位での整備により、県内のがん医療の均てん化を図ることができ、より効率的ながん診療を提供できると考える。

○ 当県においては、福岡・糸島医療圏への一極集中的な医療状況にあり、県全域へ質の高い医療の提供のためにはある程度の集約化が必要であることから、整備数については、各ブロック内人口及び二次医療圏数等を考慮する。

ブロック	二次医療圏	圏域内医療需給率(入院)	圏域内医療需給率(入院外)
福岡	福岡・糸島	94.8%	95.1%
	粕屋	42.7%	42.4%
	宗像	38.6%	41.4%
	筑紫	38.1%	47.5%
筑後	朝倉	42.2%	47.8%
	久留米	83.4%	87.9%
	八女・筑後	65.5%	71.3%
	有明	73.6%	76.8%
筑豊	飯塚	82.0%	88.0%
	直方・鞍手	36.2%	41.9%
	田川	58.8%	71.6%
	北九州	94.8%	96.4%
北九州	京築	35.6%	40.0%

○ 推薦する13病院の二次医療圏別の割りつけを次のとおりとする。

ブロック	二次医療圏	病院	
北九州	北九州	産業医科大学病院	
		九州厚生年金病院	
		北九州市立医療センター	
福岡	福岡・糸島	九州医療センター	
		済生会福岡総合病院	
		福岡大学病院	
		福岡東医療センター	
筑豊	飯塚	飯塚病院	
		直方・鞍手	
筑後	田川	社会保険田川病院	
		聖マリア病院	
	久留米	久留米大学病院	
		朝倉	公立八女総合病院
			有明

-208-